

平成 28 年度「大阪市英語力調査」（「英検 IBA」）に おける新東淀中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、大阪市教育振興基本計画*に基づき、英語イノベーション事業*の一環として、「大阪市英語力調査」（「英検 IBA」）を実施いたしました。この調査の目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることです。

学習指導要領における中学校英語の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」と示されております。本調査で測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上を目指してまいります。

- 1 目 的
 - (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
 - (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

2 対 象 大阪市立全中学校 生徒 1～3年生

※本校では

3年生	220人	平成28年11月2日（水）実施
2年生	203人	平成28年11月2日（水）実施
1年生	195人	平成28年11月2日（水）実施

3 内 容

学年	英検 IBA の 種類	英検（目安）	テスト内容		満点 スコア
			リーディング問題	リスニング問題	
3年	テストC	英検準2～5級レベル	35 題	30 題	1100 点
2年	テストD	英検3～5級レベル	35 題	30 題	1000 点
1年	テストE	英検4級・5級レベル	35 題	25 題	800 点

* 大阪市教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

* 英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

平成 28 年度 「大阪市英語力調査」(「英検 IBA」)の結果の概要と今後の取組 新東淀中学校

■ 調査内容

学年	英検 (目安)	テスト内容		満点 スコア
		リーディング問題	リスニング問題	
3 年	英検準 2 級～5 級レベル	35 題	30 題	1100 点
2 年	英検 3 級～5 級レベル	35 題	30 題	1000 点
1 年	英検 4 級・5 級レベル	35 題	25 題	800 点

■ 調査結果

【「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の値は分野別平均正答率(%)】

3 年	学校平均スコア (点/1100 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 3 級レベル以上の割合 (%)
	719.0 点	52.2%	52.5%	51.5%	32.3%
	市平均スコア (点/1100 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 3 級レベル以上の割合 (%)
	723.9 点	54.0%	56.6%	51.1%	38.9%
2 年	学校平均スコア (点/1000 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 4 級レベル以上の割合 (%)
	620.0 点	58.8%	53.1%	55.4%	46.3%
	市平均スコア (点/1000 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 4 級レベル以上の割合 (%)
	650.6 点	64.1%	58.4%	61.8%	61.4%
1 年	学校平均スコア (点/800 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 5 級レベル以上の割合 (%)
	520.7 点	64.7%	54.4%	63.3%	84.0%
	市平均スコア (点/800 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 5 級レベル以上の割合 (%)
	509.2 点	63.7%	50.0%	61.6%	80.6%

■ 結果の概要と今後の取組について

学年	結果の概要と今後の取組
3 年	<p>〈結果と概要〉 全市平均と比較し、本校の結果はリスニング以外全ての分野において低かった。特に「読解」の弱さが目立つ結果となった。</p> <p>〈今後の取組〉 読解力を高める為、授業で長文読解のポイント等を説明し、時間を測りながら繰り返し問題を解いていく。また、高校生になっても挑戦できるよう英検の説明や紹介もしていきたい。</p>
2 年	<p>〈結果と概要〉 「市平均」と比較すると全ての分野において 5.3～6.4%下回る結果となった。昨年度（1 年生時）は約 10%下回っていたのでその差は縮まりつつはあるが、まだまだ学力の向上を図る必要がある。</p> <p>〈今後の取組〉 語彙、読解は市との差は 5.3%であるのに対しリスニングは 6.4%となっている。今後も C-NET や team teaching、少人数授業を活用し、個々に応じた授業展開に努め、リスニング力の強化、基礎学力の定着を図る。</p>
1 年	<p>〈結果と概要〉 全ての分野において市平均を上回った。一方で「語い」の分野については市平均とほぼ同じ数値であったため、単語力をさらに伸ばす必要がある。</p> <p>〈今後の取組〉 語いの定着に関してはプリントの工夫や ICT の活用など、様々なアプローチで取り組んでいるが、今後さらに「書かせる」「話させる」機会を増やしていく。</p>